



地獄でもあるまじい

フエイト / ステイナイト 成人向
衛宮士郎 × 言峰綺礼

地獄でもあるまいに









——そう
実感させられる
この行為も
最初は
悪くはなかつた

アッ



……



既に二度
終わりを迎えている
雷の肉体だ

アッ

この標が

ここまで
生き残り、在った異物の
仮面は、の結末なのだ
悪人は

だが



帳尻あわせか、
罪滅ぼしの
つもりか。



この少年は
目に付くもの
手当たり次第に
掻き集めた



あの日



自身が
尊ぶものに
害を及ぼすものと

わかっていながらだ



愚かな



私は
待っている



呪いじみた
理想で
その身を縛られ



己も省みず
余計な荷物ばかりを
背負っていく
歪な少年が





潰れる瞬間を
待っている



徒勞の果てに
訪れる落胆と
落胆な自派

ささやかな
楽しみではあった





「正確の味方の
無様な結果が」

今日のは割と
自信作だぞー



ん？



切嗣と共に
過ごした空間に
その仇敵を入れようと
よく考えたものだ

理解しがたい
観不孝者だな



なんだ？
苦手なもんでも
あったか

ごちそう



…またその
話かよ

しつこいな
アンタも



…お前は



……



黙って
食え

親父は関係ない
俺の意思だっ
つってんだろ



……元々いた者たちの
安寧の場を

この私の存在が
奪っていると
してもか？







その時は
お前も一緒
だからな



わい



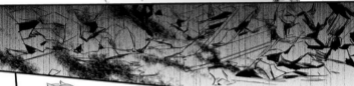
か
い



ならば







衛宮

當時……

情けないものだ

残存する魔力が
微量過ぎて
五大元素の基礎すら
竟棄なくてな

地道に
コンロから
火を起こすはめに
なったぞ

なんとも
間抜けな話
だろう？

憎め



殺せ



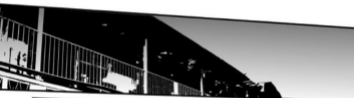
でも

「なんでも
いいから
隠れ」



何をやっても
最悪

悪逆極きにし
ならんのか







もう
疲れたのだ



怒嗔の声



そいつだ



こゝろでなくては——









早く
飲めよ!



クソッ
時間が過ぎ
すぎた!!

そっだ...
魔力!!



...
いい加減にしろ



うっ!

カッ
カッ





痛に陣る

その罪人ぶった
「罪人」を
やめろと言った



私を救せ
御宮

…ああ!?

!?



さもないほ
殺す

…

私の贖罪のためとは
よく言ったものだ





機を脱すや?
そんな体で
かよ?









倒
た

この男は
初めから

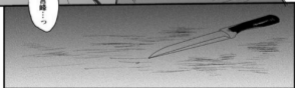
……か



……みね

正気などでは
なかったか

……



















うわ

アサギの手に
アサギの手が握る

誰か



い

こぼしたく

下らん感傷に

私を巻き込むな

俺は

あゝ
全く

お前を――

割に合わん











家の修繕工事が
終わったら

遠坂に
ノシ廻る舞う……とに
なってるんだ

……そうか

その時
私が運に
殺されない事を
せいで祈っておけ

う

そうだったら
全力で抵抗は
してみる

……エビでも
なんでもいい

俺がお前に
生きて欲しいことは
確かなんだからな



この少年が
漬れる瞬間を
待っている



…それで
いいんだよ



せいぜい
落胆しろ

何を期待しているのか
知らんが
私はもう何も出らんぞ
正確の味方



なまこ
不快

「なまこ」
「不快」
「なまこ」
「不快」

なまこ

せめて
この目でそれを
見届けないことには



ああ、
何作らうか

…それより
腹が減ったな

割が合わん
気がするのだ

地獄でもあるまいに

フェイト/ステイナイト 衛宮士郎×言峰綺礼
二〇一四年二月三〇日 三度の飯が好き

